

山口緑地に3500本植樹

市と帯広の建設業者協定

札幌市と宮坂建設工業(帯広、宮坂寿文社長)は11日、ごみ埋め立て地だった山口緑地(手稲区)に植樹する協定を結んだ。



協定では、同社が今年秋ごろから4年かけて、同緑地44畝のうち北西側の0・7畝に3500本の苗木を植える。樹種は今協定の締結に臨む宮坂寿文社長(中央)と上田文雄市長(左)

後決める。また、下草刈りなどの維持管理を8年間行う。同緑地での協定締結は3例目。

同社は札幌支店を開設し今年で70年目を迎えた。また、昨年6月から北区の道路や公園をボランティア清掃しており、さらに社会貢献活動を広げようと植樹を申し出た。市役所を訪れた宮坂社長は「環境問題は自らが汗をかかないと身近にならない。社会の役に立ちたい」と話していた。(中村征太郎)